

自然観察 NOW

NO : 7 1

野幌森林公園自然情報

発行 : 2023年6月8日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



今年の野幌の森の春は急ぎ足で、早春と春の盛りの花々が入り乱れて咲いていました。エゾエンゴサクのそばに、ミヤマエンレイソウとオオバナノエンレイソウが、同時に咲いているという具合でした。近年大人気の、亜種シマエナガを見たいと、たくさんの鳥好きが集まっていました。それが今は初夏6月、初夏を告げるカッコウの声や、たくさんの夏鳥たちのさえずりが、爽やかな野幌の森に響いています。そして、エゾハルゼミの合唱の中に、花たちは夏の次の花へと交代をし始めています。今日は、次第に色濃くなっていく木々の森の中を歩いて、初夏の花々を見つめ、初夏の野鳥のさえずりの声に耳をすまして、野鳥の声を楽しんでみませんか。

野幌の森に響く、夏鳥の声に耳をすませてみよう！！

○ キビタキ (黄鶺鴒) スズメ目 ヒタキ科

美しい色彩と美声を持つ鳥。森の”ピッコロ奏者”と呼ばれるほど、素敵な声で鳴く。

(分布) 北海道全域で夏鳥。本州から沖縄でも夏鳥。北海道は生息密度が高い。

繁殖地は、日本列島とサハリンの他は、大陸にわずかに点在するのみ。日本特産に準じる繁殖分布。

(学名) *Ficedula narcissina* は、「水仙のような色のイチジクを好む」という意味。

(英語名) Narcissus Flycatcher 「narcissus(ナルシス)」は、黄水仙の意味。ナルシスは、ギリシア神話で水辺に移る自分の姿に見とれているうち、水仙になってしまったという美少年の名前。

「flycatcher(フライキャッチャー)」は、ヒタキ類の総称で、飛びながら虫を捕まえる習性を表している。

(中国名) 水仙花鶺鴒

(名前の由来) 火打ち石を打っているような「カッカ」

と言う鳴き声から「火焚き」となり、「黄色いヒタキ」。

【姿・色】雌雄異色。夏冬同色。雄は頭から上面が黒く、眉斑と喉から胸、腰が黄色い。喉の黄色には橙色みがある個体が多い。翼には白斑がある。雌は全体的に褐色で目立たない。

【生態】平地から広葉森林で繁殖する。明るい林を好む。樹洞や樹木の裂け目などに営巣する。食性は、動物食の強い雑食。昆虫や節足動物などを捕食することが多く、秋に

は、木の実も好む。浮遊昆虫を見つけると、飛びながらとらえる。これを「フライキャッチ」と呼ぶ。

雄同士のなわばり争いでは、スズメバチのようにブーンという羽音のような声を出して、嘴をパチパチ鳴らして追い回す。地上に落下してもみ合いもする。

【鳴き声】“さえずり”は、ピッコロロ、ツクツクチィ、チーチョホイ、チーチョホイ。“地鳴き”は、ビッ、ビッ。ブーンなどと鳴く。繁殖期の雄は美声で複雑にさえずる。



※「夏鳥」とは、繁殖するために日本やってくる渡り鳥のこと。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のこと。ちなみに「冬鳥」とは、越冬するために日本にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のことをいう。春、野幌の森にやって来る鳥は「夏鳥」。

○ クロツグミ（黒鶇） スズメ目 ヒタキ科

古くから美声の鳥で有名。夏の朝のコーラスの主演。初夏の”フルート奏者”と呼ばれる。ソロ演奏の複雑な音色の他、時々、他の鳥のまねを入れて鳴く。

（分布）北海道全域で夏鳥。本州から九州でも夏鳥。

世界的には、中国で繁殖するだけで分布は狭い。

（学名） *Turdus cardis* は、「アザミのようはツグミ類」という意味。

（英語名） **Japanese Thrush** は、「日本のツグミ」という意味。

（中国名） 烏灰鶇 （アイヌ語名） イタカチャ（ものいう・小父）

【姿・色】雌雄異色。夏冬同色。雄は頭から上面と、胸が黒い。胸から下面は白く、脇腹に黒斑がある。嘴とアイリングは黄色。雌は頭から上面は黒みがかかった茶褐色。下面は白く、黒斑がある。胸から脇が橙色。

【生態】平地から山地の森林で繁殖する。明るい広葉樹林に多い。食性は動物食で、ミミズや昆虫、果実も好む。主に日本の山地で子育てをする。雌もさえずることがある。“さえずり”は、全国の地域によりさまざまである。

【鳴き声】“さえずり”は、キョロイ、キー、キョコキョコキョコなど大きい声で複雑に鳴く。バリエーションも豊富。“地鳴き”は、キョキョキョ。ツイーなどと鳴く。

【婚姻関係】繁殖については、木の枝の上にコケ類や枯れ枝、土を使って椀状の巣を作る。3個から4個の卵を産む。抱卵日数は12日から13日。14日程度で雛は巣立つ。産卵交代をオスとメスが共同で行う。毎年同じ場所で繁殖しないようである。



☆ 野鳥、一口メモ ～日本の野鳥の世界的分布を知ろう！（その1）～

よく、「なあんだ！ヒヨドリか！」「また、ヤマガラが鳴いているよ！」など、鳥に大変失礼な言葉を発する人が、しばしばみられます。

ところが、外国人が、日本でヒヨドリを観ると、「ヒヨドリ！オー、ワンダフル！！」と、感嘆の声。我々日本人は、何で？と思います。実は、ヒヨドリは、ヨーロッパにもアメリカにもいないのです。野鳥の世界的な分布については、意外に知らないで、野鳥を見ている人の多いこと。

例えば、ヒヨドリは、日本全域の他、サハリン、朝鮮半島南部、台湾、中国南部、フィリピンの一部の極めて狭い地域にしか分布していません。

日本の野鳥の中には、日本しかいない鳥の他、世界の限られた地域にしかいない鳥が、意外にいます。鳥の名前を知るだけで終わらず、鳥の生態や分布などを知ると、野鳥への親しみが倍増します。鳥のことを、もっと勉強しませんか！

（主な参考文献）北海道野鳥図鑑（亜璃西社）・北海道野鳥ハンディガイド（北海道新聞社）
フィールド図鑑日本の野鳥（第2版）（文一総合出版）他

★ 6月の観察会の予定

- ☆ 「前田森林公園自然観察会」 6月11日（日）10:00～12:00（集合：前田森林公園新川駐車場）
- ☆ 「苫小牧緑ヶ丘公園観察会」 6月18日（日）10:00～12:00（集合：金太郎の池駐車場）
- ☆ 「三角山登山観察会」 6月30日（金）9:00～12:00（集合：山の手（緑化会前）登山口）

文責（道場 優（どうじょう まさる））